

【荒川区自治総合研究所】
「地域コミュニティを支える組織・団体に関する
アンケート（町会・自治会代表者向け）」
アンケート結果（速報）【概要】

去る令和7年7月に、町会・自治会の代表者の方々に「地域コミュニティを支える組織・団体に関するアンケート」にご協力いただきました。このたび、最初の分析結果をまとめましたので、その結果をご報告いたします。

質問ごとの、度数分布表やわかったことについて、別冊子をご覧ください。ここでは、特に重要であったり、興味深いと感じた知見についてまとめます。

① 荒川区の町会・自治会の基本情報について

- **設立時期は戦後20年以内**の団体が7割。一部は戦前にさかのぼるところや、反対に、平成以降に設立された新しい団体もある。 ⇒冊子1ページ
- 自治会の規模は、**年間予算で200万～500万円未満**の団体が6割と比較的小規模な団体が多いが、年間予算1,000万円以上、加入1,000世帯以上の大きな団体も複数存在する。 ⇒冊子2ページ
- 役員任期は1年以上～3年未満が6割。任期の定め無しが3割。任期があっても再選の制限がないところもある。 ⇒冊子2ページ
- **町会役員**の半数は**70代以上**である。**代表者**は**6割が75歳以上**である。代表者は10～20年の役員歴を持つ者が多い。 ⇒冊子4ページ、22ページ、23ページ

② 町会・自治会の活動について

- 町会・自治会の最も重要な役割は「**地域住民の親睦**」が6割、「**生活環境の維持**」が2割である。 ⇒冊子5ページ
- ほとんどの団体は「**防災**」「**防犯**」「**清掃・美化**」「**イベント**」を実施している。「高齢者・障がい者支援」「見守り運動」「趣味・文化活動」が各4割、「子育て支援」が1割だった。 ⇒冊子3ページ
- 地域の課題は「**高齢化**」9割、「**防災**」8割、「**防犯**」・「**つながりの希薄化**」が各6割、「**子育て**」2割だった。 ⇒冊子24ページ

③ 町会の新規参加者と勧誘について

- 町会・自治会の過去 **10年での新規参加者を問うと、「ある程度」以上いる町会が4割**、「あまりいない」が5割、「ほとんどいない」が1割である。 ⇒冊子7ページ
- 町会・自治会への新規参加者の勧誘活動について、6割の団体が「直接訪問」を実施しており、4割が「不動産業者を通じた勧誘」を行っている。このどちらか、あるいは両方を行っている団体は全体の8割である。また、新規参加者の受け込みに関する取組として、多くの町会・自治会がイベントへの参加促進や役員による声かけをしている。 ⇒冊子8ページ、9ページ

④ 町会・自治会の課題と必要な区の支援について

- 町会・自治会の課題として「**担い手不足**」「**役員高齢化**」を各9割以上の団体が回答している。次いで「デジタル化」「活動参加者の減少」「負担の偏在」が各4割である。 ⇒冊子11ページ
- 主に担い手不足や高齢化を理由として、**2割の団体が「縮小」や「解散」を考えている**。なお5割は「現状維持」で、3割は「拡充・発展」を考えている。 ⇒冊子12ページ
- 持続的活動のために**必要な区の支援として「担い手育成」が最も多く6割**であった。次いで「補助金」が5割、「情報発信・デジタル化支援」が3割である。 ⇒冊子13ページ